



## CONTENTS

## Top Opinion

今後の高速鉄道整備について考える

J R東日本コンサルタンツ(株) 取締役会長（未来構想PF理事） 栗田 敏寿

1

## WS Topics

2

## VOICE

3

次代が活躍できる職場を目指して

鉄建建設(株) 今野 夏実 名川 里菜

## たすきリレー

4

雑感・思い出

J R東日本コンサルタンツ(株) 佐々木 敏也

## 今月の国際比較データ

5

## PF書店／私のインフラ巡礼／編集後記

6

## Top Opinion

今後の高速鉄道整備について考える  
—観光施策・地域交通との連携—

J R東日本コンサルタンツ(株) 取締役会長（未来構想PF理事） 栗田 敏寿

日本のGDPがドイツに抜かれ世界4位に転落した（2025年にはインドに追い抜かれ5位へ転落予想）。人口比はドイツ/日本=2/3なので、単純に言えば生産性を5割増しにしてドイツ並みという事になる。こうした中、北陸新幹線は敦賀まで延伸し、今後、沿線地域の活性化と観光産業の更なる発展など、地域経済ひいては外国人観光客の増大など日本経済の発展に少しでも寄与して欲しいと期待している。



そこで、国際的にみて、「GDP」と「高速鉄道整備（以下：路線延長）」の推移と現状がどのようになっているのか、調べてみた。（出典GDP：IMFデータポータル、高速鉄道延長：HIGH SPEED LINE WORLD 2022）

まず、日本は、「GDP」と「路線延長」が同じような傾向で伸びてきて（相関関係があるようにみえるが検証はしていない）、2023年の路線延長は3,148km（敦賀開業によって年度末3,273km）となっている。これは世界第3位の規模であるが、因みに国鉄末期の1985年は世界第1位だった。

一方、中国はこの20年間で凄まじい勢いで整備してきており17,701km（世界第1位、対日5.6倍）となっている。欧州を見ると、フランスが3,049km（世界第4位）とほぼ日本と同規模だが、GDPの成長以上に高速鉄道の整備を進めている点が日本とは異なる。

この傾向が特に強いのがスペインである。その路線延長は3,992km（世界第2位、対日1.3倍）と日本をやや上回る程度だが、やはりこの20年間で急速に伸ばしてきており今後も急ピッチで整備が進められる計画だ。「スペイン政府は、高速鉄道整備は経済成長の起爆剤、雇用創出の一環という方針を示している」と紹介した調査レポート\*も見受けられるが、飛行機に比べエネルギー及び環境性能に優れていると



## 私のインフラ巡礼



## ～鋸山石切り場跡～

首都圏のインフラ整備に貢献した房州石の産出地

（J R東日本エネルギー開発 大口 豊さん）

未来構想PFのホームページ  
（HP）をご覧ください。会員はもちろん社会に大きく  
開かれた「参加型」HPです。

未来構想PF

検索

で検索してください。

トップページへのリンクは

[こちら](#)



いう国民意識も背景にあると思われる。高速鉄道と地域鉄道が有機的にネットワークされ、各地の世界遺産や観光資源を直結することが、外国人旅行客数世界第2位の観光立国としての地位を有する大きな要因の一つになっているのではなからうか？（\* 出展「運輸と経済第73巻第12号」13.12 海外トピックス - スペイン高速鉄道の現状と課題 - ）

日本の高速鉄道（新幹線）整備の速度はこうした国々と比べても遅く、約50年前に策定した新幹線整備計画に基づき進められているが、この計画自体が高度成長時代の最中に策定されたもので、日本の総人口は拡大し国内需要が多く見込める時代に策定したものだ。しかしながら、今や、時代環境は大きく変わり、世界に先駆けて総人口減少時代へ突入した日本は、今後20年で約2千万人の人口が減少する時代を迎える。

だからこそ、高速鉄道の整備にあたっては、国内需要だけではなく、インバウンド、外国人ビジネスマンの需要をしっかりと取り込む施策と連携して進める必要があるのではないだろうか。世界との交流人口や関係人口を増やす施策をダイナミックかつスピーディに進め、これと連携した高速鉄道整備（新幹線整備や主要な幹線鉄道の高規格化）は必要不可欠な施策だと感じている。

また、新幹線は、阪神淡路大震災以降進められてきた耐震補強工事によって耐震性能が大幅に向上し、比較的大地震に強い交通モードになっている点も強みである。高速道路と補完しあいながら遠隔地からの支援や復興等に新幹線が果たす役割は大きい。

現在、急激な人口減少と頻発する災害を背景に、サステナブルな街づくりを前提とした地域交通の再構築の議論が始まったが、今後の高速鉄道の整備にあたっては、観光施策と地域交通（ex 富山ライトレール）と連携して進めていくことが、今後の日本の社会・経済の再生に大きく寄与するものと考えている。

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。

連絡先：未来構想 PF 事務局 大口

電話：03-4334-8157 メール：[info@miraikoso.or.jp](mailto:info@miraikoso.or.jp)

〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28

## WS Topics

令和5・6年度 未来構想PFワークショップ  
(第2回)

去る4月23日に令和5・6年度未来構想ワークショップ第2回として、検討テーマの対象駅となっている新木場駅及び周辺の現地調査を実施しました。

当日はファシリテーターの廣瀬理事を筆頭に、ワークショップメンバーならびに事務局の総勢17名の参加となり、JR東日本千葉支社、東京臨海高速鉄道、東京メトロ、三井不動産の関係者の皆様からご案内をいただきました。現場調査を受けて、ワークショップメンバーからは、「駅の構造が4階層でコンパクトとなっており、土地が広いのでどう展開するか」、「駅利用者は乗り換えがほとんどで、駅を目的地として何か設けられないか」、「貯木場が街の真ん中にあるのに水辺空間を感じられなかった」などの感想が多数挙がりました。

今回の現地調査での気づき等を踏まえて、今後のワークショップの活動を引き続き進めてまいります。



東京臨海高速鉄道新木場駅



東京メトロ新木場駅



新木場駅南側駅前広場



三井リンクラボ新木場2から貯木場を望む





## VOICE

次代が活躍できる職場を目指して

鉄建建設(株) 今野 夏実  
名川 里菜

当社では、若い世代を中心に女性技術者が活躍の場を広げています。これからライフイベントを迎える20代～30代の女性は全女性の7割にも及んでおり、年々増加しています。そのような状況の中で、女性社員がさらに活躍できる職場環境を整備するため、様々な取り組みを行っています。今回は、当社が実施している女性活躍推進の取り組みと、私が参加した「育児期女性社員座談会」についてご紹介いたします。

### 1. 女性活躍推進の取り組み

当社では、女性をはじめ誰もが働きやすい職場環境の実現に向け2021年度に女性活躍推進ワーキンググループが発足しました。

ワーキングでは、女性の活躍を阻害する要因の一つになりうる「アンコンシャスバイアス」についての研修を全国で実施しているほか、独自の現場環境整備マニュアルを制定し、トイレや更衣室などの「現場設備の整備」にも取り組んでいます。また、生理以外の婦人系の体調不良でも取得できる「女性健康サポート休暇」を新設するなど、女性特有の健康課題についての取り組みも行っています。

さらに、昨年度からは「女性社員のキャリア支援」のための新しい取り組みを導入し、キャリア支援面談を通じて、多くの女性社員が「仕事と育児の両立」について不安を抱えていることが明らかになりました。

### 2. 育児期女性社員座談会

「育児期女性社員座談会」は、キャリア支援面談で浮かび上がった

さまざまな不安や悩みに対し、解決の糸口を見つけてもらいたいと、下記の目的で企画されました。この座談会は視聴を希望した20代～30代の総合職および地域総合職の女性社員にリアルタイムでオンライン配信されました。

- ①今後ライフイベントを迎える女性社員が、現在仕事と育児を両立している先輩ママ社員（育児期女性社員）の経験談を通じて、両立への不安を軽減する
- ②育児期女性社員が意見交換を通じて、仕事と育児の両立に関する不安や悩みを軽減する
- ③両立支援施策の課題を抽出し、今後の取り組みにつなげる

座談会には未就学児の子供を持つ女性社員7名が参加し、そのうち1名はリモートで参加しました。ダイバーシティ推進部の野本担当部長が進行役を務め、参加者は「1日の過ごし方」「両立を困難にする事柄」「困難の乗り越え方」「事前にできること」といった4つのテーマに分かれ、それぞれが自身の経験談を語りました。



育児期女性社員座談会

### 3. おわりに

ママ社員との対話を通じて、時間の使い方や仕事への姿勢について考えることができ、新たな気づきがありました。今後も定期的に社員の経験や意見を取り入れながら、職場環境の改善やキャリア支援策の構築が進むことを期待しています。今回の座談会が、これからライフイベントを迎える社員の皆さんにとって、今後のキャリア形成に新たな視点を持つきっかけとなればと思っています。



育児期女性社員座談会 オンライン配信画面



## たすきリレー

## 雑感・思い出

J R 東日本コンサルタンツ(株) 佐々木 敏也

昨年9月に70歳になった。唐の時代の詩人「杜甫」がよんだ詩の一節「人生七十古来稀」(じんせいしちじゅうこらいまれなり[70歳まで生きるのは非常に稀なこと])が由来の「古稀」になったということである。「人生100年」の時代に近づいてきている現代では長寿のお祝いとは言えないが、人生の節目のひとつでもあり、生誕地の中学の同年生の会でお祝い会が行われた。この「同年生の会」は地元にいる有志が幹事となり「33歳、42歳の厄払いの会」を行ってきており、「還暦を祝う会」を実施した後は毎年開催してきた。丁寧に一昨年(数え年)と昨年(満年齢)の2度に渡り「古稀を祝う会」を開催してくれたが、残念ながら当方は両方とも日程の都合上、参加が叶わなかった。この「古稀を祝う会を」最後に解散したとの連絡があったが、喜寿(77歳)、傘寿(80歳)、米寿(88歳)等「年祝い」残っているので、喜寿の年齢に近づいた時には再びこの会が復活することを期待している。

社会人になったのが昭和51年(1976年)、これまで仕事をしてきた期間は48年となった。約半世紀、何とも長い期間仕事をしてきたのかとしみじみ思う。国鉄に就職し仙台での研修後に配属された勤務箇所は、岩手県平泉町の工事現場であった。平泉町は初めての地であったが、これから勤務する事務所は中尊寺や毛越寺等の観光地に近い平泉駅の周辺かなという勝手な思い込みを持って駅に降りた。しかしながら、迎えに来ていた上司に連れて行ってもらった職場は、駅の東側を流れる北上川を渡って3kmほどの東稲山の麓の田んぼの中にあった。田んぼを盛土造成した宅地に、他の工事現場から転用されてきた工事区建物と寮建物の2棟のプレハブが職住接近を絵に描いたように隣合せて建っていた。その地で1年間担当した「東北新幹線の軌道敷設工事」が私の最初の仕事であった。周辺には人家がない寮の食堂で、夕食のおかずを肴に酒を飲んで先輩に鍛え歌わされた「工事区之歌」(一ノ関トンネル(建設時は「一関」ではなかった)の工事の内容等が凝縮された歌詞)が懐かしい。当時は支障家屋の移転や用地買収

が開始されたばかりの北上川の洪水対策としての「一関遊水地事業」が進捗し、約20年後には平泉駅の南側、北側を流れる北上川の支流である「太田川」、「衣川」に架かる橋りょうの改築及び線路移設・切換工事を担当するという縁の深い平泉町となった。800年以上前に「西行法師」が東北新幹線「一関トンネル」の上部にある東稲山の「桜」をよんだ歌を知ったのは後年のことであるが、未だに「中尊寺東物見台」から東稲山に咲く満開の桜を見ていない。

最初の業務が新幹線工事であったためか、その後の国鉄、J R 東日本での仕事の多くは、新幹線関係の業務であった。国鉄時代は東北新幹線大宮・盛岡間、上野・大宮間の工事等に従事した。J R 東日本になってからは、山形新幹線福島・山形間、秋田新幹線、東北新幹線八戸駅延伸・新青森駅延伸に関連する工事や開業関連業務に従事してきた。20年ほど前に検討した福島駅での山形新幹線上り線アプローチの工事が現在最盛期を迎えており、早期の完成を期待している。前述した通り、国鉄・J R 東日本での仕事の多くは新幹線関連業務が多かったが、勤務箇所数も多かった。入社から退職までの34.5年の中で勤務した箇所は16か所(1か所当たり平均2年と2か月)、住んだ場所は複数回も含めると12か所(1か所当たり平均2年11か月)となり、2年経過したら新しい仕事に従事し、3年程度で新しい街に住むという人生であった。一緒に仕事をした上司や同僚には怒られそうであるが、飽きっぽい性格の自分自身は、多くの地で多くの人と仕事を行う事ができた楽しい人生を過ごすことができたと思っている。

J R 東日本を退職した翌年の2011年3月11日14時46分に東日本大震災が発生した。仙台にある会社に再就職し、会社の窓口をしていた関係で15:00から開催される会合に参加すべく有楽町駅近くの会場にて着席、開始を待っていた。発災後の開始となった会合であったが、会場にいた半数以上の参加者は帰社・帰宅等移動ができず、余震で講演が中断されつつも18:00頃まで続けられた会合に最後まで参加していた。私も最後まで聴講してはいたが、震災の状況を知るべく携帯電話のワンセグ機能のニュースを専ら見ており、当日の講演内容の記憶は定かでない。津波が押し寄せる仙台湾各地の海岸線や仙台空港等の放映された映像に茫然自失するとともに、自然の猛威の怖さを改めて認識させられた。翌日に予定されていた身内の葬儀に備え帰宅するにも交通機関は全て不通であったため、有楽町からさいたま市の自宅ま





での約30Kmの移動手段は徒歩しかなかった。北に向かい線路沿いの道路を長蛇の列に交じて歩いて行く中で、ヘルメット・軍手を着用しズボンにスニーカーというスタイルのOLに出会った。災害時の移動としてはあまりに完璧な出立に驚き、「その恰好はどうしたのか」と声をかけたら、素晴らしい答えが返ってきた。「丸の内に勤務しているが、毎年の防災の日には自宅まで徒歩で帰る訓練をしている。歩いて帰宅する前提の衣類等は会社のロッカーに入れあり、いざというときに備えている」との事だった。備えあれば憂いなし。革靴で大きな荷物を持った私は、軽快に歩くOLに遠く引き離され、寒くなった深夜の道を時速3～4 Kmの速度で汗をふきながら歩いていた。

以上、取り留めのない雑文でしたが、電子データとして手元にあった東日本大震災の被災状況の写真を添付し最後とします。



東日本大震災の被災状況（仙石線）



東日本大震災の被災状況（東北本線）



東日本大震災の被災状況（東北本線）

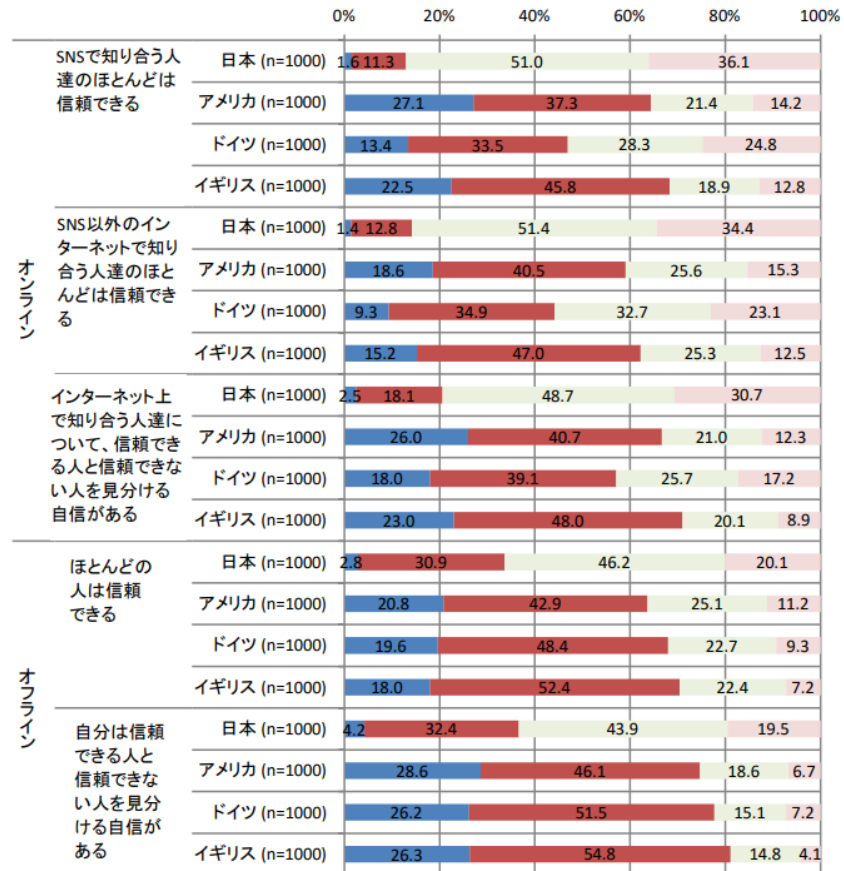


今月の国際比較データ



●オンラインやオフラインで知り合う人の信頼度の国際比較

先月のPF書店で取り上げた「商店街の復権」の中にあつたオンラインやオフラインで知り合う人の信頼度に関する国際比較を紹介します。本の中では、商店街が賑やかになるためには人の連携が不可欠であると述べていますが、欧米と比較して人を信頼しない傾向にあることも商店街の衰退の一因であると考察しています。



■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そうは思わない

(出所) ICTによるインクルージョンの実現に関する調査研究 (総務省：2018)



PF 書店



本の題名をクリックすると、出版社の書籍紹介HPにリンクします！

### ① 世界を変える100の技術 (日経BP)

IT、医療・健康、エネルギーなど2022年から30年にかけて有望な技術100件をわかりやすく解説した『世界を変える100の技術』。「AI」技術が最初に紹介されるのは自明なことであるが、次に「建築・土木」の新技术が紹介されていることは、この業界に属する人間にとって明るい未来を感じることができ誇らしい。「グリーンコンクリート」、「透明太陽光発電パネル」、「建設3Dプリンター」などは注目したい。さまざまな業界の新技术が今後どのように進化し、これらの技術で世界はどう変わっていくのだろうか。

### ② 変容するインドネシア (小川忠著 めこん)

人口は世界第4位の大国・インドネシア。にもかかわらず、個人的にインドネシアのことはよくわかっていない。これを機に勉強しようと思った『変容するインドネシア』。西部ジャワ、中部ジャワ、東部ジャワ、バリ、アチェ、中部スラウェシ、ポソ、パプア諸州、東ヌサ・トゥンガラ、スマトラ諸州など、それぞれの地域の事情が異なりすぎて、それを理解するだけでも勉強になる。そしてジャカルタからヌサンタラへの壮大な首都移転構想。ジョコ大統領が退く今後、どのようにこの国との連携が進展していくのか注目である。

### ③ 世界から青空がなくなる日 (エリザベス・コルバート著 白揚社)

人間が自然を人工的にコントロールするテクノロジーに着目し、その影響について考える『世界から青空がなくなる日』。人類は今までも自然をコントロールしようと地球環境に介入し、その結果、環境が破壊され、気候変動や生物多様性の危機を招いてきた。人間が自然を人工的にコントロールする技術は自然を救うことができるのか。一例で紹介している「ソーラー・ジオエンジニアリング」。成層圏にダイヤモンドをまいて太陽光を反射し地球を冷やす。これで、「世界から青空がなくなる日」を迎えることになるのだろうか。



私のインフラ巡礼



### 「鋸山石切り場跡」 (千葉県富津市)



「岩舞台」に残置された往時の建設機械

荷車で石材を運搬した「車力道」

←房州石の切出し跡地「岩舞台」

千葉県富津市と鋸南町の境に位置する鋸山(329m)は、東京湾をはじめとした展望の観光地として多くの方が訪れますが、首都圏のインフラ整備に多大な貢献をした房州石の産出地としても知られています。

岩質は凝灰角礫岩や凝灰質砂岩を主とし、水や熱に比較的強いという軟らかく、切出しが容易なため江戸時代から本格的な石の切出しが行われました。明治時代には金谷地区の人口の八割が石材産業に携わっていたとも言われ、昭和に入ってからには各種の機械化も行われています。ここから搬出された房州石は横浜港や靖国神社、早稲田大学構内など、首都圏の随所で現在も現役で利用されています。

切出しについては1982(昭和57)年に全ての操業を終え、現在は北面の富津市金谷地区側からのハイキングコースに沿い、石材の搬出に利用された車力道や、往時の機械類が残置され壁面に「安全オー」の文字が読める岩舞台、高度差100m近くの垂直の「ラピュタの壁」と呼ばれる採掘跡など、往時を偲ばせる遺構を見ることができます。

(JR東日本エネルギー開発 大口 豊さん)

### 編集後記

今年のGWは、皆さんどのように過ごされましたでしょうか。記録的な円安進行がインバウンド機運を高め、海外または国内旅行者が日本の観光地を訪れ、賑わいを見せていたように思います(自分は実家に帰省して、のんびり過ごしていただけですが・・・)。インバウンド拡大で日本に落とされるお金が増えることは良いことと思いますが、円安の進行で賃金に見合わない物価上昇が起こらないよう祈るばかりです。(S.Y)